

○ホームページはよくできている

学校もコロナの件で大変だと思う。この頃の生徒たちは「必要とされたい」ということを渴望している。大学を出たりした人が学習する場合は第二臨床検査学科は今後も必要だと思う。

- 説明会に行っていますが、希望者は例年なみか、少し多いように思います。
- 高校生の場合、進路指導部の先生の影響を受けやすく、先生が「こういう時だし、医療系はやめておいた方がいいよ」という指導をされると、受験を控える高校生はいると思う。
- 柔軟に対応できる人間が必要ではある。このような学校ではライセンスを取るということが基本となるので、高校生や受験生が目標を持てるような働きかけが必要である。医療職ということ事態が存在価値がある。以上のようなことの周知活動をどうするか考えなければならない。
- 特徴ある学校という事にしないといけない。特に第二臨床検査学科は東京の学校と2校しかないので、周知するようにしたい。
- 本校は3年制の教育で、学費も大学の半分ぐらいである。将来構想を考えると大学化するかどうか1つの視点ではある。
- 中学生や高校生で見学にくる人は、身うちりが医療人であることが多い。
- 彼らの夢を育てていくようにする。資格をもっているからこそできることを知らせていく。
- 専門学校は、学生集めが一番苦勞するところである。現場とのギャップは埋める必要がある。どうやって埋めるのかという事が課題になる。
- 卒業生が活躍していることがよい点ではないか
- 学校と現場にはギャップがあるという事であり、説明するのはなかなか難しいので、学生自身に覚悟を持たせるようにするとよい。
- 教育の中で現場に近い状況を再現し。シミュレーション教育や演習(習ったことにどう対応するか)、教材を十分揃えるなどしている。できる限り実践教育をしている。
- 臨地での実習が最も効果的と考えている。また卒業生や技師会関係者などに来ていただいて学生に講義をしてもらっている。本校の臨地実習は7単位11週間である。大学の臨地実習は1週間の見学のみという学校もあります。同じ臨床検査技師の免許であるに差が大きいという事で2022年より法改正により大学も同じように12単位となります。
- コミュニケーション不足が問題だと思う。コミュニケーションがうまく取れないと、現場でも人と交わることができなくなるので退職する人もいる。コミュニケーション能力は非常に必要である。

今後の課題

- *現場と学校の授業ではギャップが激しいので、今後がギャップをうめる努力をする
- *コミュニケーション能力の育成に力を入れる

評価表よりの課題

- *学校の将来構想を抱いているか 15ポイント達成率 62.5%
各学科で将来構想はあると思うが、文章化できていないことや学校全体の構想になっていないので今後、それぞれの意見を集め体系的なものにして行きたい。
- *卒業生への支援体制はあるか 19ポイント達成率 79.2%
- *学生のボランティア活動を奨励・支援しているか 19ポイント達成率 79.2%
卒業生への支援体制は、本年度よりカミングデイを計画していたが、コロナウイルス感染防止のため実行できていない。しかし今後卒業生支援については、検討し実行していく。

学生のボランティア活動は、学生自身が申し出てきた場合は、学校は支援体制を取っている。しかし震災地域へ学生を派遣するなどは本校のカリキュラムでは難しい。